



障がいのある人もない人も共に生きる



6月東村山市議会報告 東村山・生活者ネットワーク 市議会議員 白石えつ子

一般質問より

相談支援の中核を担う「基幹相談支援センター」の可能性について

障害者自立支援法が一部改正されたことにより、障がいに限らず、すべての市民の生活相談支援を総合的に担う「基幹相談支援センター」が設置され、2019年4月から稼働しています。これまでの実績が評価され東村山社会福祉協議会「一」とが業務を担います。

住み慣れた地域で誰もがその人らしく暮らし続けていくために、地域の相談支援体制をどのように強化していくのかについて質問し、「多職種連携が進むように、関係機関が参加する会議等で、お互いに顔の見える関係を維持向上させ、地域の相談支援

6/6 農業に頼らず、環境に配慮した自然栽培を実践する佐伯さんの講座。佐伯さんには障がいを持つお子さんがいます。障がい者も共に働く場として「農福連携」には大きな可能性があります。



7/7 医療型短期入所施設「もみじの家」ハウスマネージャー内多勝康さんの学習会。医療的ケア児介護の現状は過酷です。理解が進めば、どんなに障がいが高くても、共に生きる社会に変わります。

7/14 東村山市子育て支援施設「ころころの森」開設時にお世話になった汐見稔幸先生の講座に参加。「今の子ども遊びが危ない。外で何の遊具もない中で、頭と心から体を自在にきたえ、自然に即した遊びほど大事なものは無い」との結論でした。



ネットワーク強化を進めていく」との答弁でした。
※現在、障がい者が入所できるグループホーム待機者は、80人にのぼることも課題です。今後は、障がい者の地域生活拠点の整備も期待されます。親なき後も、最期まで安心して地域で暮らし続けられるまちづくりを、提案していきます。

教育と福祉と医療の連携について
発達障がいの子どものへの過剰投薬を知っていますか？

発達に課題のある児童・生徒には、症状を緩和させるため等の目的で向精神薬が処方され、服用している場合があります。国連の子どもの権利委員会から、日本の未成年者への過剰投薬に勧告文が

出されています。この現状を受け、学校等での対応について質問しました。
発達等に課題があり就学先を相談する場合、医師の所見や診断書を提示する割合が5年で44%から61%に上昇。
「全ての子ども服用状況を把握し、効果と副作用を教員で共有している。衝動的な行動をとってしまう児童・生徒に対しては慎重な言動をとるように指導している」との答弁がありました。
※決して薬を否定するものではありませんが、幼少期からの服用には課題があります。その子らしく生活を送れるように環境を整える必要があります。そのため当事者を含めた薬の学習会を開催し、課題を共有していきます。

スーユンタン 『しげんカフェ』スタート!

スーユンタンは働きづらさを抱えた人々と、緩やかな働き方、自分にあった働き方をしている事業所です。
清掃・草取り・ポスティングの仕事に加え、新たに資源回収をする「しげんカフェ」が6月にスタート。名古屋の「しげんカフェシステムズ」と、都内荒川区のリサイクルショップ・片付け事業所「あうん」と連携しています。
生活クラブ生協の支援で久米川町3丁目の生協店舗「デポー東村山」裏に事務所を構え、資源の引き取りを始めました。家庭内の雑誌・新聞紙・古着・本・雑誌・段ボールをどなたでも持ち込めます。ポイントで買取り、デポーで使える金券やロールペーパーと交換します。



市の資源回収は税金の委託ですが、「しげんカフェ」は税金に頼りません。その分の税金を他に使えます。そしてより再利用や再使用されるルートに乗せ、資源を生かします。何より働きづらさを抱えた人たちの職場になります。
資源は丁寧に扱うことを皆で心がけ、ゴミにしない回収ルートに回しましょう!新事業のモデルになり、サテライト型で増えることを願っています。(和田)

ワーカーズ・コレクティブ
スーユンタン
東村山市久米川町3-32-44
TEL/FAX: 042-306-2442
営業時間: 月・火・土・日
10:30~16:00
紙類 1kg=2ポイント(2円)
古着 1kg=1ポイント(1円)

